



親子の学び応援講座(福島市小中学校PTA 連合会)

この講座は、県北地域における家庭教育を推進するとともに親の学び・家庭での実践活動を支援することを目的としています。今回は、令和4年1月29日(土)に福島県青少年会館に設置した事務局を発信拠点として栃木県在住の講師と各校の家庭教育推進委員等を結んだオンラインによる講演を実施しました。

福島市小中学校PTA 連合会家庭教育推進委員会のニーズ

日々、迷いながら子育てをしている。
親は子どもにどう向き合っていけばよいのか。



子育てにおいて、子どもの話を親がどう受け止めるか、受け止め方によって子どもの心にどんな影響があるかなど、親子のコミュニケーションに関する講演を聴くことが家庭教育推進のために有効である。

講演 親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子 氏
『家庭教育は子どもの「生きる力」を育む原点』
～メディア社会だからこそ大切にしたい親子のコミュニケーション～



1 人間関係の基盤作りは親子関係から

* 親子のコミュニケーションは不可欠

子どもが ・サインを出している
・困っている
・悩んでいる

親は受け止めて「聞く」
・能動的な聞き方
・回答を出すのは子ども自身

子どもの行動で 親が ・困っている
・イライラする
・心配になる

親は率直に自分を「語る」
・非難、指示、命令をしない
・「わたし」を主語にして伝える

子どもの
自己肯定感
自己決定能力
社会性
が育まれる

2 子どもの思いを受け止め、親の思いを伝える会話



・子どもの話を聞く
・頑張りを認める
・ありがとうの言葉を惜しまない
・親の要望を伝える



せっかく話したのに、
否定されるなんて
もう話さない!

答えを大人が出すのではなく、受け止めて
聞いてあげる。子どもに**親の気持ちを率直
に語る**ことで理解と協力を求める。

ぼくの話聞いてくれた!
お母さんはこうして欲しいんだな

<参加者の声>

- 子どもの目線で向き合い、寄り添い、子どもたちのいろいろなサインに気づけるようになりたいと思いました。
- 「子どもを育てることは己を育てること」という言葉がためになりました。
- 話をよく聞いて自分の気持ちを伝えていくことを習慣にできるようにしたいです。

【子どもの心に届く話し方を】

- 子どもの行動を見たま、聞いたままに捉え、自分自身への影響や感情を伝えることが大切です。
- ◇ 子どもの人格を尊重し能動的に話を聞いたうえで、親の思いを伝えましょう。
- ◇ 「話をする時間が取れない」と諦めず、意識して「家族で話をする時間」を作りましょう。

家庭教育に関するお問い合わせは県北教育事務所総務社会教育課 菅野まで
(電話 024-521-2814 E-mail kanno_momoko_02@pref.fukushima.lg.jp)